

両生類

種名	ニホンアカガエル (<i>Rana japonica</i>)
指定をする理由	生息地は低地に限られるが、産卵場所の環境が変化し、生息できなくなった地域が複数確認された。特に冬季に水が溜まっている産卵に適した水田や湿地の減少が顕著で、絶滅のおそれがある。
形態	全長45～60mm、雌が雄よりも大きい。背面は赤褐色で、背側線は鼓膜の後方で途切れない。腹面は茶色がかった白色で、近縁種であるヤマアカガエルに見られる喉の黒斑はない。幼生の背面に1対の黒斑がある。
生息分布状況	主に低標高地域に生息し、産卵場所は冬季でも水が溜まっている水田や湿地である。非繁殖期は産卵場所周辺の森林や草地で生活する。 東洋町、室戸市、南国市、高知市、須崎市、黒潮町、四万十市、宿毛市
種の存続を脅かす要因	開発や土地利用形態の変化による水田や湿地の減少。
保護に関する指針	本種の捕獲等については、県内全域において知事の許可を受けた場合以外は、当該種の捕獲等を禁止するものとする。
高知県レッドデータブック掲載状況	CR+EN(絶滅危惧Ⅰ類)
高知県希少野生動植物保護基本方針該当項目	イ 生息・生育地における環境条件が著しく悪化若しくは消滅しつつある種

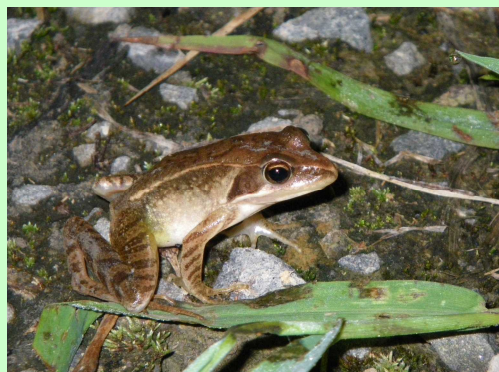


写真: NPO法人四国自然史科学研究センター